

# ἀπόστολος

## アポストロス

### 知っておきたいキリスト教のことば (89)

## 使徒 すと

「使徒」という言葉の背景には、旧約聖書に出てくる法的用語である「使者」があると考えられています。この「使者」とは、特定の任務を持ち、権威を与えられていた人たちのことです。ただし預言者のことを神の使者とは呼ばず、宣教的な意味はもちませんでした。

新約聖書の中では、「遣わされた者」、「教会の代表」、「福音の宣教者」といった意味を持つようになります。聖書の中で使徒と呼ばれているのはイエス様自身から遣わされた12使徒の他に、新たに宣教の地を開拓した人たち（パウロ、バルナバ、ヤコブなど）がいます。彼らは特別な使命をもって遣わされた人たちだと考えられ、特別視されていたようです。ただしステファノやフィリポ、アポロやテモテは使徒とは呼ばれていません。

パウロは自分のことを「使徒」と呼んでいます。十字架前のイエス様には直接出会ってはいませんが、ダマスコでの回心のときに復活のイエス様に出会ったことが、彼の宣教の根底にあるからです。

そのパウロは手紙の中で、使徒の定義を以下のように定めています。

- ①キリストから(あるいは復活の主から)直接召された人
- ②福音を携えた使者
- ③異邦人への宣教の使命をもち、そのことで苦難を受ける
- ④教会において、一つの役割を果たすに過ぎない者

パウロは自分を、最後の使徒と呼びました。しかしわたしたち一人ひとりも復活のイエス様に出会い、召されています。だからわたしたちも「遣わされた者」として、使徒信経を唱え、イエス様に従い歩んでいくのです。

次回は「主」です。お楽しみに。



「パウロの回心」

ピエトロ・ダ・コルトーナ

(1596~1669年)

朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。

(ルカによる福音書6章13節)

